

(様式第 10)

佐大医経第 102 号
平成 27 年 10 月 2 日

厚生労働大臣

殿

佐賀大学医学部附属病院
病院長 森田 茂樹

佐賀大学医学部附属の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒 8 4 0 - 8 5 0 2 佐賀市本庄町 1
氏 名	国立大学法人佐賀大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

佐賀大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒 8 4 9 - 8 5 0 1 佐賀市鍋島 5 - 1 - 1	電話 (0 9 5 2) 3 1 - 6 5 1 1
-----------------------------------	----------------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	① . 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 呼吸器内科 2 循環器内科 3 消化器内科 4 肝臓・糖尿病・内分泌内科 5 血液・腫瘍内科 6 神経内科 7 腎臓内科 8 緩和ケア内科 9 リウマチ科 10 11	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 呼吸器外科 2 心臓血管外科 3 消化器外科 4 脳神経外科 5 整形外科 6 形成外科 7 8 9 10 11 12 13	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科 2 3 4 5 6 7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科 2 病理診断科 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21
--

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
24床	0床	0床	0床	580床	604床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	311人	173人	387.4人	看護補助者	54人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	9人	2人	9.9人	理学療法士	20人	臨床検査技師	39人
薬剤師	41人	0人	41人	作業療法士	6人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	3人	その他	0人
助産師	16人	1人	16.8人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	683人	18人	696.3人	臨床工学技士	12人	医療社会事業従事者	5人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	1人	その他の技術員	38人
歯科衛生士	1人	0人	1人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 員	216人
管理栄養士	7人	1人	7.7人	診療放射線技師	33人	その他の職員	16人

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	24人	眼科専門医	8人
外科専門医	20人	耳鼻咽喉科専門医	6人
精神科専門医	5人	放射線科専門医	14人
小児科専門医	12人	脳神経外科専門医	8人
皮膚科専門医	7人	整形外科専門医	14人
泌尿器科専門医	6人	麻酔科専門医	14人
産婦人科専門医	8人	救急科専門医	8人
		合 計	152人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	465.7人	12.4人	478.1人
1日当たり平均外来患者数	891.9人	47.8人	939.7人
1日当たり平均調剤数	713.8剤		
必要医師数			103人
必要歯科医師数			3人
必要薬剤師数			9人
必要(准)看護師数			273人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
			病床数	16床	心電計	(有)・無
集中治療室	293.8m ²	鉄筋コンクリート	人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 58.81m ² [移動式の場合] 台数 11台		病床数	4床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 38.0m ² [共用室の場合] 共用する室名 共用なし					
化学検査室	224m ²	鉄筋コンクリート	自動血液分析機、自動生化学分析機			
細菌検査室	105m ²	鉄筋コンクリート	自動塗布装置、自動薬剤感受性検査装置			
病理検査室	73m ²	鉄筋コンクリート	自動包埋装置、クリオスタット			
病理解剖室	79m ²	鉄筋コンクリート	特殊解剖台、特殊型計量測定運搬車			
研究室	3,060m ²	鉄筋コンクリート	顕微鏡、遠心機、培養装置、パソコン			
講義室	1,277m ²	鉄筋コンクリート	室数 8室	収容定員 987人		
図書室	1,061m ²	鉄筋コンクリート	室数 6室	蔵書数 127,300冊程度		

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	79.5%	逆紹介率	62.7%
算出根拠	A: 紹介患者の数		9,460人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		9,034人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,993人
	D: 初診の患者の数		14,406人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	該当なし	取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	42人	・膿疱性乾癬	9人
・多発性硬化症	50人	・広範脊柱管狭窄症	4人
・重症筋無力症	54人	・原発性胆汁性肝硬変	16人
・全身性エリテマトーデス	213人	・重症急性膵炎	0人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	85人
・再生不良性貧血	27人	・混合性結合組織病	30人
・サルコイドーシス	52人	・原発性免疫不全症候群	4人
・筋萎縮性側索硬化症	20人	・特発性間質性肺炎	11人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	144人	・網膜色素変性症	11人
・特発性血小板減少性紫斑病	55人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	31人	・肺動脈性肺高血圧症	13人
・潰瘍性大腸炎	169人	・神経線維腫症	6人
・大動脈炎症候群	21人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	7人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2人
・天疱瘡	7人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3人
・脊髄小脳変性症	20人	・ライソゾーム病	5人
・クローン病	61人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	8人	・脊髄性筋委縮症	4人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	64人	・球脊髄性筋委縮症	2人
・アミロイドーシス	9人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	13人
・後縦靭帯骨化症	24人	・肥大型心筋症	1人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	71人	・ミトコンドリア病	4人
・ウェゲナー肉芽腫症	12人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	41人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	10人	・黄色靭帯骨化症	19人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	56人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・歯科外来診療環境体制加算	・呼吸ケアチーム加算
・歯科診療特別対応連携加算	・病棟薬剤業務実施加算
・特定機能病院入院基本料	・データ提出加算2
・臨床研修病院入院診療加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・救急医療管理加算	・救命救急入院料4
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料4
・妊産婦緊急搬送入院加算	・ハイケアユニット入院医療管理料2
・診療録管理体制加算1	・新生児特定集中治療室管理料2
・急性期看護補助体制加算	・小児入院医療管理料4
・看護職員夜間配置加算	・食堂加算
・看護補助加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1、感染防止対策地域連携加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行加算)	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・高度難聴指導管理料	・頭蓋骨形成手術(骨移植を伴うものに限る)
・糖尿病合併症管理料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・がん性疼痛緩和指導管理料	・羊膜移植術
・外来緩和ケア管理料	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・糖尿病透析予防指導管理料	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・外来放射線照射診療料	・網膜再建術
・ニコチン依存症管理料	・上顎骨形成術(骨移動を伴うものに限る)、下顎骨形成術(骨移動を伴うものに限る)(歯科診療に係るものに限る。)
・地域連携診療計画管理料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1,2
・がん治療連携計画策定料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・がん治療連携管理料	・経皮的冠動脈形成術
・認知症専門診断管理料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・経皮的冠動脈ステント留置術
・薬剤管理指導料	・経皮的大動脈弁置換術
・医療機器安全管理料1	・経皮的中隔心筋焼灼術
・医療機器安全管理料2	・ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術
・在宅患者訪問看護・指導料	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図計摘出術
・同一建物居住者訪問看護・指導料	・両心室ペースメーカー移植術、両心室ペースメーカー交換術
・持続血糖測定器加算	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術
・造血器腫瘍遺伝子検査	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・検体検査管理加算(IV)	・補助人工心臓
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・埋込型補助人工心臓(非拍動流型)
・植込型心電図検査	・経皮的大動脈遮断術
・時間内歩行試験	・ダメージコントロール手術
・胎児心エコー法	・腹腔鏡下肝切除術

・ヘッドアップティルト試験	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・皮下連続式グルコース測定	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・神経学的検査	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・補聴器適合検査	・同種死体腎移植術
・内服・点滴誘発試験	・生体腎移植術
・センチネルリンパ節生検1, 2	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・CT透視下気管支鏡検査加算	・人工尿道括約筋植込・置換術
・画像診断管理加算2	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・手術の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1
・CT撮影及びMRI撮影	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・冠動脈CT撮影加算	・輸血管管理料Ⅰ
・外傷全身CT加算	・自己生体組織接着剤作成術
・大腸CT撮影加算	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・心臓MRI撮影加算	・内視鏡手術用支援機器加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・外来化学療法加算1	・歯周組織再生誘導手術
・無菌製剤処理科	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・放射線治療専任加算
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・外来放射線治療加算
・がん患者リハビリテーション料	・高エネルギー放射線治療
・集団コミュニケーション療法料	・1回線量増加加算
・医療保護入院等診療料	・強度変調放射線治療(IMRT)
・処置の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・一酸化窒素吸入療法	・定位放射線治療
・う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・歯科技工加算	・病理診断管理加算2
・皮膚悪性黒色腫切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・インプラント義歯	・
・超音波骨折治療法	・
・肝切除手術における画像支援ナビゲーション	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に1回開催
剖 検 の 状 況	剖検症例数 42例 / 剖検率 16.34%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
特発性大腿骨頭壊死症の治療法確立と革新的予防法開発に向けた全国学際研究	多田 芳史	膠原病・リウマチ内科	1,000,000円	補委	国立大学法人九州大学
全身性自己免疫疾患に対する新規B細胞標的療法の開発	小荒田 秀一	膠原病・リウマチ内科	2,210,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
成人スチル病の病態発現におけるToll様受容体の研究	末松 梨絵	膠原病・リウマチ内科	1,300,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
血漿遊離DNAの出現機序の解析とヒト肺がん細胞転移モデルマウスへの応用	荒金 尚子	呼吸器内科	1,690,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
テーラーメイド治療のための血漿遊離DNAを用いた遺伝子変異モニタリングシステム	中村 朝美	呼吸器内科	1,430,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
アルツハイマー病における脳の慢性炎症病態解析と治療法開発	原 英夫	神経内科	910,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
CML幹細胞化因子の同定とその制御	木村 晋也	血液・腫瘍内科	1,430,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
白血病p53による白血病微小環境の変調	小島 研介	血液・腫瘍内科	1,690,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
MEK阻害剤を用いた移植後GVHDの選択的抑制と感染・腫瘍免疫の温存	進藤 岳郎	血液・腫瘍内科	1,950,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
循環器病における時計遺伝子の解析	野出 孝一	循環器内科	1,040,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
新規バイオマーカーの開発・検証	野出 孝一	循環器内科	1,500,000円	補委	独立行政法人国立循環器病研究センター
心疾患の遠隔管理による緩和医療	野出 孝一	循環器内科	1,000,000円	補委	公益財団法人三井生命厚生財団
循環器病の終末医療の緩和ケアに向けての研究	野出 孝一	循環器内科	1,700,000円	補委	公益財団法人三井住友海上福祉財団
循環器疾患における時間薬理学的研究	野出 孝一	循環器内科	5,000,000円	補委	公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団
高齢者重症心臓病の看取りに関する研究	野出 孝一	循環器内科	900,000円	補委	公益財団法人ユニバーサル財団
冠動脈分岐部への薬剤溶出性ステント埋め込みの多施設共同比較試験(BEGIN)	挽地 裕	循環器内科	100,000円	補委	公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
視床下部と自律神経系による代謝調節機構の解明: 個体・細胞レベルでの検討	藤本 一眞	消化器内科	1,690,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
メルケル細胞癌の生存、増殖、分化に対する有棘細胞癌の影響およびその修飾因子の解明	永瀬 浩太郎	皮膚科	1,560,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
膵癌微小環境を構築する星細胞のphenotypingとその制御による新規治療開発	上田 純二	一般・消化器外科	2,564,397円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
未分化型胃癌に対する低酸素誘導エピジェネティック分子を標的とした治療モデルの確立	古賀 靖大	一般・消化器外科	1,170,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
TFF1分泌蛋白を用いた消化器癌治療モデルの確立	中村 淳	一般・消化器外科	2,080,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
新規組織工学によるiPS細胞からの心臓血管臓器再生療法の開発	森田 茂樹	心臓血管外科	3,250,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
組織工学による3次元自己細胞由来心臓血管組織を用いた次世代型心臓手術技術の開発	古川 浩二郎	心臓血管外科	1,690,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
新規組織工学による次世代型血管外科再生療法の開発	伊藤 学	心臓血管外科	1,430,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
ヒト幹細胞由来機能的3次元心筋組織構築法の開発	野口 亮	心臓血管外科	1,430,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
ヒト幹細胞から機能的3次元心筋組織の構築法および移植法の開発	野口 亮	心臓血管外科	6,240,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
特発性大腿骨頭壊死症の疫学調査・診断基準・重症度分類の改訂と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設研究	馬渡 正明	整形外科	120,000円	補委	厚生労働省 科学研究費補助金(分担)
骨片の把持機能向上のために表面加工を施した低侵襲骨接合プレートの力学特性	園畑 素樹	整形外科	1,820,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
慢性の痛み診療の基盤となる情報の集約とより高度な診療の為の医療システム構築に関する研究	園畑 素樹	整形外科	1,000,000円	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
銀含有ハイドロキシアパタイトコーティングに関する研究	染矢 晋佑	整形外科	2,470,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
膀胱尿路上皮癌細胞の生存・増殖・遊走・浸潤における脂肪組織の役割とその制御機構	魚住 二郎	泌尿器科	1,690,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
膀胱癌由来癌幹細胞の生存・増殖・分化・遊走における間質細胞の役割とその制御機構	徳田 雄治	泌尿器科	1,690,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
糖尿病足病変における荷重圧分散を考慮したモジュール化した靴の開発	上村 哲司	形成外科	1,560,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
糖尿病足に対する生体力学に基づいた予防的手術の有効性の検討	菊池 守	形成外科	650,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
膝疾患における膝組織血流量の多元的臨床的評価法の確立	入江 裕之	放射線科	1,040,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
脊髄血液灌流の評価方法の確立	江頭 秀哲	放射線科	1,040,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
健常高齢者の抑うつ状態及び認知機能低下に関する臨床研究	門司 晃	精神神経科	1,500,000円	補委	公益財団法人 ファイザーヘルスリサーチ振興財団
認知症発症リスクバイオマーカーに関する前方視的研究:伊万里市長期縦断疫学研究	川島 敏郎	精神神経科	1,820,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
人工多能性幹細胞を用いたもやもや病の病因病態解析と治療法の開発	松尾 宗明	小児科	2,080,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究	松尾 宗明	小児科	500,000円	補委	厚生労働省 科学研究費補助金(分担)
神経皮膚症候群に関する診療科横断的検討による科学的根拠に基づいた診療指針の確立	松尾 宗明	小児科	1,000,000円	補委	厚生労働省 科学研究費補助金(分担)
ゲノムワイド父性ダイソミーの分子病態に関する研究	大塚 泰史	小児科	1,560,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
生理的感覚感度調節に寄与するサイトカインの発見と、その疼痛調節メカニズムの解明	平川 奈緒美	麻酔科蘇生科	2,600,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
自主開発の手術補助剤を基盤にした手術用観察系の開発と新たな機能探究の包括的研究	江内田 寛	眼科	1,560,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
無侵襲の眼底酸素飽和度測定装置の開発と臨床評価	江内田 寛	眼科	80,000,000円	補委	文部科学省(国立研究開発法人科学技術振興機構)
舌癌患者に対する間葉系幹細胞を用いた新たな舌再建法の確立	山下 佳雄	歯科口腔外科	1,040,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
Wntシグナルを活性化し増殖させた歯髄幹細胞と歯の硬組織は骨補填材になりうるか?	檀上 敦	歯科口腔外科	1,690,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
胃癌細胞の生存・増殖・浸潤・脂肪滴沈着における脂肪組織の役割とその制御機構	戸田 修二	病理診断科	2,080,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
悪性黒色腫細胞の生存、増殖、遊走、浸潤における脂肪組織の役割とその制御機構の解明	青木 茂久	病理診断科	1,950,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
コラーゲンビトリゲルを用いた新規創部被覆材に関する研究開発	青木 茂久	病理診断科	8,000,000円	補委	農林水産技術会議事務局
骨髄肥満が骨芽細胞-骨細胞分化系列に与える影響とその制御機構の解明	内橋 和芳	病理診断科	1,950,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
アレルギー性炎症におけるマトリセルラータンパク質の役割の解明および治療への応用	太田 昭一郎	検査部	1,690,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
自己細胞由来人工皮膚グラフトを用いた重症熱傷治療法の開発	小網 博之	高度救命救急センター	1,560,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
時間外一次救急外来の実態調査および診療受け入れ体制の検討	百武 正樹	総合診療部	1,560,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築のための研究	江口 有一郎	肝疾患センター	11,000,000円	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
急性感染も含めた肝炎ウイルス感染状況・長期経過と治療導入対策に関する研究	江口 有一郎	肝疾患センター	1,000,000円	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
小児におけるB型肝炎の水平感染の実態把握とワクチン戦略の再構築に関する研究	江口 有一郎	肝疾患センター	200,000円	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
心拍変動を用いた研修医の自律神経機能・ストレス評価と研修プログラム適正化への応用	吉田 和代	卒後臨床研修センター	1,040,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金

小計 11

合計 58

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	小荒田 秀一	膠原病リウマチ内科	Subsets of RP105-negative plasmablasts in IgG4-related disease.	Ann Rheum Dis. 73(10):e65,2014.
2	小荒田 秀一	膠原病リウマチ内科	Microgeodic disease that can mimic rheumatoid arthritis.	Austin J Musculoskelet Disord. 2:1016, 2015.
3	小荒田 秀一	膠原病リウマチ内科	Comparison of In vitro and in vivo effects of infliximab on cytokine production in proliferating CD4+T cells in patients with rheumatoid arthritis.	Clinical Anti-Inflammatory & Anti-Allergy Drugs. 1:122-128, 2014.
4	小野 伸之	膠原病リウマチ内科	Characteristics of MPO-ANCA-positive granulomatosis with polyangiitis: a retrospective multi-center study in Japan.	Rheumatol Int. 35(3):555-559,2015.
5	加藤 剛	呼吸器内科	β 2 adrenergic agonist attenuates house dust mite-induced allergic airway inflammation through dendritic cells.	BMC Immunol. 15:39,2014.
6	梅口 仁美	呼吸器内科	Usefulness of plasma HGF level for monitoring acquired resistance to EGFR tyrosine kinase inhibitors in non-small cell lung cancer.	Oncol Rep. 33(1):391-396,2015.
7	末岡(荒金)尚子	呼吸器内科	Correlation between plasma DNA and tumor status in an animal model.	PLoS One. 9(12):e111881,2014
8	田畑 絵美	神経内科	Recombinant tissue-type plasminogen activator (rt-PA) therapy in an acute stroke patient taking dabigatran etexilate.	Intern Med. 53(14):1515-1517, 2014.
9	薬師寺 祐介	神経内科	Norms of the mini-mental state examination for Japanese subjects that underwent comprehensive brain examinations: the Kashima Scan Study.	Intern Med. 53(21):2447-2453, 2014.
10	薬師寺 祐介	神経内科	Basal ganglia cerebral microbleeds and global cognitive function: the Kashima Scan Study.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 24(2):431-439,2015.
11	薬師寺 祐介	神経内科	Topography and associations of perivascular spaces in healthy adults: the Kashima scan study.	Neurology. 83(23):2116-2123, 2014.
12	北村 浩晃	血液・腫瘍内科	Diffuse bone marrow uptake of fluorodeoxyglucose in a patient with aleukaemic acute lymphoblastic leukaemia.	Br J Haematol. 166(1):2,2014.

13	久保田 寧	血液・腫瘍内科	Bilateral renal infiltration as the initial presentation of multiple myeloma.	Br J Haematol. 167(1):2,2014.
14	吉村 麻里子	血液・腫瘍内科	Induction of p53-mediated transcription and apoptosis by exportin-1 (XPO1) inhibition in mantle cell lymphoma.	Cancer Sci. 105(7):795-801, 2014.
15	蒲池 和晴	血液・腫瘍内科	Small lymphocytic lymphoma presenting as bulky renal incidentaloma.	Int J Haematol. 100(2):107-108, 2014.
16	吉村 麻里子	血液・腫瘍内科	ABL tyrosine kinase inhibitor-induced pulmonary alveolar proteinosis in chronic myeloid leukemia.	Int J Hematol. 100(6):611-614, 2014.
17	吉原 麻里	血液・腫瘍内科	Mogamulizumab treatment in a hemodialysis patient with adult T-cell leukemia/lymphoma.	Turk J Haematol. 31(4):424- 425,2014.
18	長友 大輔	循環器内科	Successful treatment of primary cardiac lymphoma causing ST-elevation myocardial infarction by percutaneous coronary intervention combined with chemotherapy.	BMJ Case Rep. pii:bcr2014207267, 2014.
19	尾山 純一	循環器内科	Incretin therapy and heart failure.	Circ J. 78(4):819- 824,2014.
20	尾山 純一	循環器内科	Sympathetic nerve activity and endothelial function.	Hypertens Res. 37(12):1035-1036, 2014.
21	尾山 純一	循環器内科	Rationale and design of a study to evaluate the effects of sitagliptin on atherosclerosis in patients with diabetes mellitus: PROLOGUE study.	Int J Cardiol. 174(2):383-384, 2014.
22	松本 圭一郎	腎臓内科	A report of an adult case of tubulointerstitial nephritis and uveitis (TINU) syndrome, with a review of 102 Japanese cases.	Am J Case Rep. 16:119-23,2015.
23	高島 毅	腎臓内科	A comparison of the long-term effects of lanthanum carbonate and calcium carbonate on the course of chronic renal failure in rats with adriamycin-induced nephropathy.	PLoS One. 9(5):e97859,2014.
24	岩切 龍一	消化器内科	Randomised clinical trial: prevention of recurrence of peptic ulcers by rabeprazole in patients taking low-dose aspirin.	Aliment Pharmacol Ther. 40(7):780- 795,2014.
25	岩切 龍一	消化器内科	PPI vs. teprenone in preventing recurrence of ulcers during low-dose aspirin - authors' reply.	Aliment Pharmacol Ther. 40(11-12): 1367-1368,2014.
26	坂田 資尚	消化器内科	Clinical characteristics of elderly patients with proton pump inhibitor-refractory non-erosive reflux disease from the G-PRIDE study who responded to rikkunshito.	BMC Gastroenterol. 14:116,2014.

27	山口 太輔	消化器内科	Characteristics of patients with non-variceal upper gastrointestinal bleeding taking antithrombotic agents.	Dig Endosc. 27(1):30-36,2015.
28	山口 太輔	消化器内科	Upper gastrointestinal bleeding in Japanese patients prescribed antithrombotic drugs: differences in trends over time.	Hepatogastroenterology. 61(132):1055-1062, 2014.
29	坂田 奈津子	消化器内科	Repeated screening with fecal immunochemical tests reduced the incidence of colorectal cancers in Saga, Japan.	Hepatogastroenterology. 61(133):1224-1228, 2014.
30	高橋 宏和	肝臓・糖尿病・内分泌内科	Biphasic effect of alcohol intake on the development of fatty liver disease.	J Gastroenterol. 2015. [Epub ahead of print]
31	成澤 寛	皮膚科	Ultrastructural studies of perichromatin granules with special references to Merkel cell carcinoma.	Arch Dermatol Res. 306(6):571-576, 2014.
32	三砂 範幸	皮膚科	The changes in the expression levels of follicular markers in keratoacanthoma depend on the stage; keratoacanthoma is a follicular neoplasm exhibiting infundibular/isthmic differentiation without expression of CK15.	J Cutan Pathol. 41(5):437-446,2014.
33	三砂 範幸	皮膚科	The histopathologic changes in keratoacanthoma depend on its stage.	J Cutan Pathol. 41(7):617-619,2014.
34	三砂 範幸	皮膚科	Cases with a spontaneous regression of an infiltrating non-crateriform keratoacanthoma and squamous cell carcinoma with a keratoacanthoma-like component.	J Dermatol. 41(5):430-434,2014.
35	井上 卓也	皮膚科	Superficial malignant peripheral nerve sheath tumor arising from diffuse neurofibroma in a neurofibromatosis type 1 patient.	J Dermatol. 41(7):631-633,2014.
36	三砂 範幸	皮膚科	Cystic trichoblastoma: a report of two cases with an immunohistochemical study.	J Dermatol. 42(3):305-310,2015.
37	與田 幸恵	一般・消化器外科	Integrated analysis of cancer-related pathways affected by genetic and epigenetic alterations in gastric cancer.	Gastric Cancer. 18(1):65-76,2015.
38	上田 純二	一般・消化器外科	Hepaticocholecystojejunostomy as effective palliative biliary bypass for unresectable pancreatic cancer.	Hepatogastroenterology. 61(129):197-202, 2014.
39	上田 純二	一般・消化器外科	Short- and long-term results of the Frey procedure for chronic pancreatitis.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 22(3):211-216,2015.

40	能城 浩和	一般・消化器外科	Robotically-enhanced surgical anatomy enables surgeons to perform distal gastrectomy for gastric cancer using electric cautery devices alone.	Surg Endosc. 28(4):1180-1187, 2014.
41	中村 淳	一般・消化器外科	Methylation-mediated gene silencing as biomarkers of gastric cancer: a review.	World J Gastroenterol. 20(34): 11991-12006,2014.
42	奥村 隆志	一般・消化器外科	Curative resection of gallbladder cancer with liver invasion and hepatic metastasis after chemotherapy with gemcitabine plus S-1.	World J Surg Oncol. 12:326,2014.
43	柚木 純二	心臓血管外科	Mid-term results of endovascular treatment with the Gore TAG device for degenerative descending thoracic aortic aneurysms.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 63(1):38-42,2015.
44	古川 浩二郎	心臓血管外科	Operative technique for tracheo-innominate artery fistula repair.	J Vasc Surg. 59(4):1163-1167, 2014.
45	柚木 純二	心臓血管外科	Clinical experience with the RELAY NBS PLUS stent-graft for aortic arch pathology.	Surg Today. 44(12):2263-2268, 2014.
46	高瀬 幸徳	脳神経外科	Magnetic resonance evaluation of cerebellar damage after microvascular decompression surgery for trigeminal neuralgia: special reference to the effects of superior petrosal vein sacrifice and cerebellar compression with a spatula.	JSM Neurosurg Spine. 2(5):1039,2014.
47	松島 俊夫	脳神経外科	Anatomy of the superior petrosal veins and their exposure and management during petrous apex meningioma surgery using the lateral suboccipital retrosigmoid approach.	Neurosurg Rev. 37(4):535- 546,2014.
48	中原 由紀子	脳神経外科	Microvascular decompression surgery for vertebral artery compression of the medulla oblongata.	World Neurosurg. 82(3-4): 535.e11-e16,2014.
49	松島 俊夫	脳神経外科	Exposure of wide cerebellomedullary cisterns for vascular lesion surgeries in cerebellomedullary cisterns: opening of unilateral cerebellomedullary fissures combined with lateral foramen magnum approach.	World Neurosurg. 82(5): e615-e621,2014.
50	塚本 正紹	整形外科	Acute and subacute toxicity in vivo of thermal-sprayed silver containing hydroxyapatite coating in rat tibia.	Biomed Res Int. 2014:902343,2014.
51	森本 忠嗣	整形外科	Ipsilateral hip dysplasia in patients with sacral hemigenesis.	Case Rep Orthop. 2015:854151,2015.
52	園畑 素樹	整形外科	Revision total hip arthroplasty combined with subtrochanteric shortening osteotomy.	Open Orthop J. 8:49-51,2014.

53	園畑 素樹	整形外科	Acute hematogenous infection of revision total hip arthroplasty by oral bacteria in a patient without a history of dental procedures.	Open Orthop J. 8:56-59,2014.
54	森本 忠嗣	整形外科	Supratentorial subdural hemorrhage of a previous head injury and cerebellar hemorrhage after cervical spinal surgery.	Spine (Phila Pa 1976). 39(12):E743-E747, 2014.
55	上村 哲司	形成外科	Technical strategies for en bloc resection and immediate reconstruction in hemangioma of the frontal bone.	J Craniofac Surg. 25(4):e402-e403, 2014.
56	野口 智幸	放射線科	A technical perspective for understanding quantitative arterial spin-labeling MR imaging using Q2TIPS.	Magn Reson Med Sci. 14(1):1-12. 2015.
57	溝口 義人	精神神経科	Microglial intracellular Ca(2+) signaling as a target of antipsychotic actions for the treatment of schizophrenia.	Front Cell Neurosci. 8:370,2014.
58	今村 義臣	精神神経科	Belief in life after death, salivary 3-methoxy-4-hydroxyphenylglycol, and well-being among older people without cognitive impairment dwelling in rural Japan.	Int J Geriatr Psychiatry. 30(3):256-264,2015.
59	鍋田 紘美	精神神経科	Association of salivary cortisol levels and later depressive state in elderly people living in a rural community: a 3-year follow-up study.	J Affect Disord. 158:85-89,2014.
60	松島 淳	精神神経科	Association of inflammatory biomarkers with depressive symptoms and cognitive decline in a community-dwelling healthy older sample: a 3-year follow-up study.	J Affect Disord. 173:9-14,2015.
61	溝口 義人	精神神経科	Brain-derived neurotrophic factor (BDNF) induces sustained intracellular Ca ²⁺ elevation through the up-regulation of surface transient receptor potential 3 (TRPC3) channels in rodent microglia.	J Biol Chem. 289(26): 18549-18555,2014.
62	前田 寿幸	小児科	Comprehensive and quantitative multilocus methylation analysis reveals the susceptibility of specific imprinted differentially methylated regions to aberrant methylation in Beckwith-Wiedemann syndrome with epimutations.	Genet Med. 16(12):903-912, 2014.
63	松尾 宗明	小児科	Effects of intracerebroventricular administration of 2-hydroxypropyl-β-cyclodextrin in a patient with Niemann-Pick Type C disease.	Mol Genet Metab. 1:391-400,2014.
64	永井 功造	小児科	Pediatric subcutaneous panniculitis-like T-cell lymphoma with favorable result by immunosuppressive therapy.	Pediatr Hematol Oncol. 31(6):528-533,2014.
65	岡 政史	小児科	Natural history of genetically proven autosomal recessive Alport syndrome.	Pediatr Nephrol. 29(9):1535-1544, 2014.

66	島津 倫太郎	耳鼻咽喉科	Laryngeal granuloma in experimental rats with gastroesophageal reflux disease and mechanically injured vocal cord mucosa.	Ann Otol Rhinol Laryngol. 123(4):247-251, 2014.
67	山下 佳雄	歯科口腔外科	A parallel-group comparison study of celecoxib with loxoprofen sodium in third mandibular molar extraction patients.	Int J Oral Maxillofac Surg. 43(12):1509-1513, 2014.
68	山下 佳雄	歯科口腔外科	Mandibular reconstruction using a titanium mesh sheet processed by laser welding after segmental mandibulectomy for implant placement.	J Oral Maxillofac Surg Med Pathol. 26:511-514,2014.
69	小網 博之	高度救命救急センター	The effects of polymyxin B-immobilized fiber hemoperfusion on respiratory impairment in endotoxemic pigs.	J Nippon Med Sch. 81(3):130-138,2014.
70	阪本 雄一郎	高度救命救急センター	Usefulness of the endotoxin activity assay to evaluate the degree of lung injury.	Yonsei Med J. 55(4):975-979,2014.
71	徳島 緑	総合診療部	Obturator hernia: A diagnostic challenge.	Am J Case Rep. 15:280-283,2014
72	徳島 圭宜	総合診療部	Thyroid storm complicated by bicytopenia and disseminated intravascular coagulation.	Am J Case Rep. 15:312-316,2014.
73	徳島 緑	総合診療部	Diffusion-weighted magnetic resonance imaging of a patient with hypoglycemic encephalopathy.	Gen Med. 15(1):76-77,2014.
74	藤木 博太	検査部	Primary cancer prevention by green tea, and tertiary cancer prevention by the combination of green tea catechins and anticancer compounds.	J Cancer Prev. 20(1):1-4,2015.
75	相島 慎一	病理診断科	Bile duct adenoma and von Meyenburg complex-like duct arising in hepatitis and cirrhosis: pathogenesis and histological characteristics.	Pathol Int. 64(11):551-559, 2014.
76	甲斐 敬太	病理診断科	Gallbladder cancer: Clinical and pathological approach.	World J Clin Cases. 2(10):515-521,2014.
77	浦上 宗治	感染制御部	Enterococcal endocarditis complicated with ruptured infected-intracranial aneurysm: with pharmacokinetic-pharmacodynamic documentation in proof of the successful antimicrobial treatment.	J Infect Chemother. 20(12):810-813, 2014.
78	浅見 豊子	先進総合機能回復センター	Woman doctors as specialists in rehabilitation medicine: present and future.	Jpn J Rehabil Med. 51:423-428,2014.

79	大座 紀子	肝疾患センター	Efficacy of ezetimibe for reducing serum low-density lipoprotein cholesterol levels resistant to lifestyle intervention in patients with non-alcoholic fatty liver disease.	Hepatol Res. 44(7):812-817,2014.
----	-------	---------	---	----------------------------------

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 臨床研究に係る業務、重篤な有害事象及び不具合等に対して研究者等が実施すべき事項に関する事 等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の管理について、利益相反の手続きについて 等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年24回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 「当院の治験（臨床研究を含む）の現状について」 「医学研究におけるCOIマネジメントの在り方」	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

<ul style="list-style-type: none">・ 植え込み型除細動器/心臓再同期療法・ 皮膚病理診断学・ 脳神経外科手術に必要な微小外科解剖・ 泌尿器・病理・放射線科症例検討会・ 先進医療「硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢の治療」研修会・ 内視鏡粘膜下層剥離術の習得・ 顎口腔領域の血管腫に対する硬化療法 等 計60件
--

2 研修の実績

研修医の人数	81.47人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
多田 芳史	膠原病リウマチ内科	科長	30年	
原 英夫	神経内科	科長	32年	
荒金 尚子	呼吸器内科	科長	28年	
木村 晋也	血液・腫瘍内科	科長	29年	
野出 孝一	循環器内科	科長	27年	
池田 裕次	腎臓内科	科長	28年	
藤本 一真	消化器内科	科長	36年	
安西 慶三	肝臓・糖尿病・ 内分泌内科	科長	29年	
成澤 寛	皮膚科	科長	35年	
能城 浩和	一般・消化器外科	科長	30年	
森田 茂樹	心臓血管外科	科長	35年	
阿部 竜也	脳神経外科	科長	25年	
馬渡 正明	整形外科	科長	32年	
野口 満	泌尿器科	科長(代行)	28年	
上村 哲司	形成外科	科長	28年	
松尾 宗明	小児科	科長	30年	
横山 正俊	産婦人科	科長	31年	
江内田 寛	眼科	科長	21年	
倉富 勇一郎	耳鼻咽喉科	科長	33年	
山下 佳雄	歯科口腔外科	科長(代行)	23年	
入江 裕之	放射線科	科長	29年	
浅見 豊子	リハビリテーション科	科長	31年	
門司 晃	精神神経科	科長	30年	
坂口 嘉郎	麻酔科蘇生科	科長	28年	
相島 慎一	病理診断科	科長	19年	
阪本 雄一郎	高度救命救急センター	センター長	22年	
山下 秀一	総合診療部	部長	31年	

青木 洋介	感染制御部	部長	31年	
杉岡 隆	地域医療支援学講座 (総合内科部門)	講座主任	25年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 該当なし・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 森田 茂樹
管理担当者氏名	診療記録センター長：山下 秀一、放射線部長：入江 裕之、 看護部長：長谷川 正志、薬剤部長：原 英夫、総務課長：濱野 満夫、 医事課長：姉川 博幸

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書		総務課 医事課 薬剤部 看護部 放射線部 診療記録センター	診療記録は、診療記録センターに おいて、1患者1ファイルで集中管 理している。 診療録の院外持出は、診療記録記 載マニュアルにより禁止している。 エックス線写真は、放射線部にお いて集中管理している。
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳 簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	—	
	紹介患者に対する医療提供 の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳 簿	医事課	
第規 一則 号第 一に 掲条 げの る十 体一 制第 の一 確項 保各 の号 状及 況 第 九 条 の 二 十 第 一 項	医療に係る安全管理 のための指針の整備状 況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理 のための委員会の開催 状況	医事課	
	医療に係る安全管理 のための職員研修の実 施状況	医事課	
	医療機関内における 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況	医療安全管理室	
	専任の医療に係る安 全管理を行う者の配置 状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策 を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を 行う部門の設置状況	医療安全管理室	
	当該病院内に患者か らの安全管理に係る相 談に適切に応じる体制 の確保状況	医事課	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	経営管理課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課 感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	MEセンター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	事務部長 最所 力男		
閲覧担当者氏名	医事課長 姉川 博幸		
閲覧の求めに応じる場所	医療相談室		
閲覧の手続の概要			
診療情報の提供を受けようとする者（申請者）が、本院の診療情報提供申請書により病院長に申請する。			
病院長は該当の診療科長等へ差し支えの有無を照会し、その回答に基づき、可否を決定し、申請者に通知する			

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無		
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>第 1 本院における医療安全管理に関する基本的考え方 第 2 医療安全管理委員会その他本院内の組織に関する基本的事項 第 3 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針 第 4 本院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 第 5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 第 6 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 (患者等に対する当指針の閲覧に関する基本方針を含む。) 第 7 患者からの相談への対応に関する基本方針 第 8 その他医療安全の推進のために必要な基本方針</p>			
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回		
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療事故に係る情報の収集及び提供に関すること。 (2) 発生した医療事故の原因分析及び改善策等に関すること。 (3) 医療事故防止のための教育・研修に関すること。 (4) その他医療安全管理に関し必要な事項</p>			
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 2 回		
<p>・ 研修の主な内容：</p>			
<p>平成 2 6 年度実績</p>			
No	研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数
1	<p>第 1 回 「医療安全管理マニュアルについて」 (医療安全管理室副室長 吉田ひとみ) 「手術室における安全管理について」 (手術部 副部長 高松千洋)</p>	平成 26 年 6 月 3 日 (30 分)	1, 328 名
2	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成 26 年 6 月 16 日 (30 分) 1 回目	
3	"	平成 26 年 6 月 16 日 (30 分) 2 回目	
4	"	平成 26 年 6 月 17 日 (30 分) 1 回目	
5	"	平成 26 年 6 月 17 日 (30 分) 2 回目	
6	"	平成 26 年 6 月 18 日 (30 分) 1 回目	
7	"	平成 26 年 6 月 18 日 (30 分) 2 回目	
8	"	平成 26 年 6 月 19 日 (30 分) 1 回目	
9	"	平成 26 年 6 月 19 日 (30 分) 2 回目	
10	"	平成 26 年 6 月 20 日 (30 分) 1 回目	
11	"	平成 26 年 6 月 20 日 (30 分) 2 回目	
—	(本開催研修会の収録ビデオ Web 上映)	平成 27 年 3 月 (30 分)	

12	第2回 「接遇の価値と現状を見つめ直す」 (有限会社コミュニケーションデザイン 研究所 代表取締役 渡邊直子)	平成26年 9月 8日 (30分)	1,329名
13	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成26年 9月16日 (30分) 1回目	
14	〃	平成26年 9月16日 (30分) 2回目	
15	〃	平成26年 9月17日 (30分) 1回目	
16	〃	平成26年 9月17日 (30分) 2回目	
17	〃	平成26年 9月18日 (30分) 1回目	
18	〃	平成26年 9月18日 (30分) 2回目	
19	〃	平成26年 9月19日 (30分) 1回目	
20	〃	平成26年 9月19日 (30分) 2回目	
21	〃	平成26年 9月22日 (30分) 1回目	
—	(本開催研修会の収録ビデオWeb 上映)	平成27年 3月 (30分)	
22	第3回 「医療安全と葉～転ばぬ先の杖～」 (副薬剤部長 田崎正信) 「医療機器連携システムの使用方法につ いて」 (MEセンター 田中淳)	平成26年 12月2日 (30分)	1,099名
23	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成26年12月12日 (30分) 1回目	
24	〃	平成26年12月12日 (30分) 2回目	
25	〃	平成26年12月15日 (30分) 1回目	
26	〃	平成26年12月15日 (30分) 2回目	
27	〃	平成26年12月16日 (30分) 1回目	
28	〃	平成26年12月16日 (30分) 2回目	
29	〃	平成26年12月18日 (30分) 1回目	
30	〃	平成26年12月18日 (30分) 2回目	
31	〃	平成26年12月19日 (30分) 1回目	
32	〃	平成26年12月19日 (30分) 2回目	
—	(本開催研修会の収録ビデオWeb 上映)	平成27年 3月 (30分)	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

【改善事例】

【問題点の把握方法】

インシデント・アクシデント速報システムによる報告、インシデント・アクシデントレポートは全て医療安全管理室で収集している。

【問題点の分析方法】

集まった事例は、GRMが影響度を分類のうえサマリ化する。サマリは定例の医療安全カンファレンス、医療安全管理室会議において分析を行う。

【改善策の検討方法】

- (1) 問題発生的事象に関連する部署と医療安全管理室で対応策の検討を行う。
- (2) サマリは、定例の医療安全カンファレンス、医療安全管理室会議において対応策等の検討を行う。
- (3) 医療安全管理委員会において審議する。

【改善事例】

- 平成26年 6月19日 プロポフォール製剤の使用について
- 平成26年 6月19日 術後X線撮影後の読影依頼と安全確認票記入について
- 平成26年 7月17日 医療用電気機器の電源コンセント適用基準 改訂のお知らせ
- 平成26年 9月24日 電子カルテシステム 禁忌・アレルギー薬剤の登録について
- 平成26年 9月29日 人工呼吸器装着者のMRI施行に関する注意点
- 平成26年10月16日 PDAによる採血管認証業務について
- 平成26年11月20日 小児の放射検査における鎮静の申しあわせについて
- 平成26年12月18日 当院における「患者誤認防止ポスター」の作成・掲示について
- 平成27年 1月27日 院内暴力・暴言等対応マニュアルの改訂について
- 平成27年 1月27日 手術用ガーゼ申請の手順
- 平成27年 2月19日 【医療相談窓口の対応】案内変更について
- 平成27年 3月26日 麻薬シュアフューザ返却について
- 平成27年 3月30日 弾性ストッキング専用メジャー配布について

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	④ (2名) ・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	④ (4名) ・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	④ ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任（2）名 兼任（19）名 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (1) 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。 (2) 医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 (3) 患者や家族への説明など医療事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 (4) 医療事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。 (5) 医療安全に係る連絡調整に関すること。 (6) その他医療安全対策の推進に関すること。 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	④ ・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無																																																
・ 指針の主な内容： 第1 本院における院内感染対策に関する基本的考え方 第2 院内感染対策のための委員会その他本院内の組織に関する基本的事項 第3 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 第4 感染症の発生状況の報告に対する基本的対応方針 第5 院内感染発生時の対応に関する基本方針 第6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 第7 その他の本院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針																																																	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回																																																
・ 活動の主な内容： (1) 院内感染の予防に関すること。 (2) 院内感染予防に係る情報の収集に関すること。 (3) 院内感染源及び感染経路の調査に関すること。 (4) 院内感染予防対策の確立に関すること。 (5) 感染制御部の運営に関すること。 (6) その他感染予防及び対策に関すること。																																																	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 2 回																																																
・ 研修の主な内容： 平成 2 6 年度実績																																																	
<table border="1"><thead><tr><th>No</th><th>研修内容 (テーマ・講師)</th><th>研修期間</th><th>参加人数</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>第 1 回 「病院感染対策マニュアルについて」 (感染制御部 副部長 金子ゆかり)</td><td>平成 26 年 6 月 3 日 (30 分)</td><td rowspan="11">1,328 名</td></tr><tr><td>2</td><td>(本開催研修会の収録ビデオ上映)</td><td>平成 26 年 6 月 16 日 (30 分) 1 回目</td></tr><tr><td>3</td><td>”</td><td>平成 26 年 6 月 16 日 (30 分) 2 回目</td></tr><tr><td>4</td><td>”</td><td>平成 26 年 6 月 17 日 (30 分) 1 回目</td></tr><tr><td>5</td><td>”</td><td>平成 26 年 6 月 17 日 (30 分) 2 回目</td></tr><tr><td>6</td><td>”</td><td>平成 26 年 6 月 18 日 (30 分) 1 回目</td></tr><tr><td>7</td><td>”</td><td>平成 26 年 6 月 18 日 (30 分) 2 回目</td></tr><tr><td>8</td><td>”</td><td>平成 26 年 6 月 19 日 (30 分) 1 回目</td></tr><tr><td>9</td><td>”</td><td>平成 26 年 6 月 19 日 (30 分) 2 回目</td></tr><tr><td>10</td><td>”</td><td>平成 26 年 6 月 20 日 (30 分) 1 回目</td></tr><tr><td>11</td><td>”</td><td>平成 26 年 6 月 20 日 (30 分) 2 回目</td></tr><tr><td>—</td><td>(本開催研修会の収録ビデオ Web 上映)</td><td>平成 27 年 3 月 (30 分)</td></tr><tr><td>12</td><td>第 2 回 「血液培養の促進について」 (感染制御部 山口浩樹)</td><td>平成 26 年 9 月 8 日 (30 分)</td><td rowspan="2">1,329 名</td></tr><tr><td>13</td><td>(本開催研修会の収録ビデオ上映)</td><td>平成 26 年 9 月 16 日 (30 分) 1 回目</td></tr></tbody></table>		No	研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数	1	第 1 回 「病院感染対策マニュアルについて」 (感染制御部 副部長 金子ゆかり)	平成 26 年 6 月 3 日 (30 分)	1,328 名	2	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成 26 年 6 月 16 日 (30 分) 1 回目	3	”	平成 26 年 6 月 16 日 (30 分) 2 回目	4	”	平成 26 年 6 月 17 日 (30 分) 1 回目	5	”	平成 26 年 6 月 17 日 (30 分) 2 回目	6	”	平成 26 年 6 月 18 日 (30 分) 1 回目	7	”	平成 26 年 6 月 18 日 (30 分) 2 回目	8	”	平成 26 年 6 月 19 日 (30 分) 1 回目	9	”	平成 26 年 6 月 19 日 (30 分) 2 回目	10	”	平成 26 年 6 月 20 日 (30 分) 1 回目	11	”	平成 26 年 6 月 20 日 (30 分) 2 回目	—	(本開催研修会の収録ビデオ Web 上映)	平成 27 年 3 月 (30 分)	12	第 2 回 「血液培養の促進について」 (感染制御部 山口浩樹)	平成 26 年 9 月 8 日 (30 分)	1,329 名	13	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成 26 年 9 月 16 日 (30 分) 1 回目
No	研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数																																														
1	第 1 回 「病院感染対策マニュアルについて」 (感染制御部 副部長 金子ゆかり)	平成 26 年 6 月 3 日 (30 分)	1,328 名																																														
2	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成 26 年 6 月 16 日 (30 分) 1 回目																																															
3	”	平成 26 年 6 月 16 日 (30 分) 2 回目																																															
4	”	平成 26 年 6 月 17 日 (30 分) 1 回目																																															
5	”	平成 26 年 6 月 17 日 (30 分) 2 回目																																															
6	”	平成 26 年 6 月 18 日 (30 分) 1 回目																																															
7	”	平成 26 年 6 月 18 日 (30 分) 2 回目																																															
8	”	平成 26 年 6 月 19 日 (30 分) 1 回目																																															
9	”	平成 26 年 6 月 19 日 (30 分) 2 回目																																															
10	”	平成 26 年 6 月 20 日 (30 分) 1 回目																																															
11	”	平成 26 年 6 月 20 日 (30 分) 2 回目																																															
—	(本開催研修会の収録ビデオ Web 上映)	平成 27 年 3 月 (30 分)																																															
12	第 2 回 「血液培養の促進について」 (感染制御部 山口浩樹)	平成 26 年 9 月 8 日 (30 分)	1,329 名																																														
13	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成 26 年 9 月 16 日 (30 分) 1 回目																																															

14	”	平成26年 9月16日 (30分) 2回目		
15	”	平成26年 9月17日 (30分) 1回目		
16	”	平成26年 9月17日 (30分) 2回目		
17	”	平成26年 9月18日 (30分) 1回目		
18	”	平成26年 9月18日 (30分) 2回目		
19	”	平成26年 9月19日 (30分) 1回目		
20	”	平成26年 9月19日 (30分) 2回目		
21	”	平成26年 9月22日 (30分) 1回目		
—	(本開催研修会の収録ビデオWeb上映)	平成27年 3月 (30分)		
22	第3回 「当院のMRSA対策の状況」 (感染制御部 副部長 曲淵裕樹)	平成26年 12月2日 (30分)		1,099名
23	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成26年12月12日 (30分) 1回目		
24	”	平成26年12月12日 (30分) 2回目		
25	”	平成26年12月15日 (30分) 1回目		
26	”	平成26年12月15日 (30分) 2回目		
27	”	平成26年12月16日 (30分) 1回目		
28	”	平成26年12月16日 (30分) 2回目		
29	”	平成26年12月18日 (30分) 1回目		
30	”	平成26年12月18日 (30分) 2回目		
31	”	平成26年12月19日 (30分) 1回目		
32	”	平成26年12月19日 (30分) 2回目		
—	(本開催研修会の収録ビデオWeb上映)	平成27年 3月 (30分)		

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

感染症法で届出が必要な場合は、主治医が報告書に記載し、診療科感染対策医、看護師長の確認のもと提出する。

新規発生MRSAやその他耐性菌については、感染制御部で部署への訪問や治療、及び感染対策の確認を行っている。

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無																																									
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 1 回																																									
・ 研修の主な内容： 平成 2 6 年度実績																																										
<table border="1"><thead><tr><th>No</th><th>研修内容 (テーマ・講師)</th><th>研修期間</th><th>参加人数</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>第 3 回 「医療安全と薬～転ばぬ先の杖～」 (副薬剤部長 田崎正信)</td><td>平成 26 年 12 月 2 日 (30 分)</td><td rowspan="11">1, 099 名</td></tr><tr><td>2</td><td>(本開催研修会の収録ビデオ上映)</td><td>平成 26 年 12 月 12 日 (30 分) 1 回目</td></tr><tr><td>3</td><td>”</td><td>平成 26 年 12 月 12 日 (30 分) 2 回目</td></tr><tr><td>4</td><td>”</td><td>平成 26 年 12 月 15 日 (30 分) 1 回目</td></tr><tr><td>5</td><td>”</td><td>平成 26 年 12 月 15 日 (30 分) 2 回目</td></tr><tr><td>6</td><td>”</td><td>平成 26 年 12 月 16 日 (30 分) 1 回目</td></tr><tr><td>7</td><td>”</td><td>平成 26 年 12 月 16 日 (30 分) 2 回目</td></tr><tr><td>8</td><td>”</td><td>平成 26 年 12 月 18 日 (30 分) 1 回目</td></tr><tr><td>9</td><td>”</td><td>平成 26 年 12 月 18 日 (30 分) 2 回目</td></tr><tr><td>10</td><td>”</td><td>平成 26 年 12 月 19 日 (30 分) 1 回目</td></tr><tr><td>11</td><td>”</td><td>平成 26 年 12 月 19 日 (30 分) 2 回目</td></tr><tr><td>—</td><td>(本開催研修会の収録ビデオ Web 上映)</td><td>平成 27 年 3 月 (30 分)</td></tr></tbody></table>		No	研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数	1	第 3 回 「医療安全と薬～転ばぬ先の杖～」 (副薬剤部長 田崎正信)	平成 26 年 12 月 2 日 (30 分)	1, 099 名	2	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成 26 年 12 月 12 日 (30 分) 1 回目	3	”	平成 26 年 12 月 12 日 (30 分) 2 回目	4	”	平成 26 年 12 月 15 日 (30 分) 1 回目	5	”	平成 26 年 12 月 15 日 (30 分) 2 回目	6	”	平成 26 年 12 月 16 日 (30 分) 1 回目	7	”	平成 26 年 12 月 16 日 (30 分) 2 回目	8	”	平成 26 年 12 月 18 日 (30 分) 1 回目	9	”	平成 26 年 12 月 18 日 (30 分) 2 回目	10	”	平成 26 年 12 月 19 日 (30 分) 1 回目	11	”	平成 26 年 12 月 19 日 (30 分) 2 回目	—	(本開催研修会の収録ビデオ Web 上映)	平成 27 年 3 月 (30 分)
No	研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数																																							
1	第 3 回 「医療安全と薬～転ばぬ先の杖～」 (副薬剤部長 田崎正信)	平成 26 年 12 月 2 日 (30 分)	1, 099 名																																							
2	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成 26 年 12 月 12 日 (30 分) 1 回目																																								
3	”	平成 26 年 12 月 12 日 (30 分) 2 回目																																								
4	”	平成 26 年 12 月 15 日 (30 分) 1 回目																																								
5	”	平成 26 年 12 月 15 日 (30 分) 2 回目																																								
6	”	平成 26 年 12 月 16 日 (30 分) 1 回目																																								
7	”	平成 26 年 12 月 16 日 (30 分) 2 回目																																								
8	”	平成 26 年 12 月 18 日 (30 分) 1 回目																																								
9	”	平成 26 年 12 月 18 日 (30 分) 2 回目																																								
10	”	平成 26 年 12 月 19 日 (30 分) 1 回目																																								
11	”	平成 26 年 12 月 19 日 (30 分) 2 回目																																								
—	(本開催研修会の収録ビデオ Web 上映)	平成 27 年 3 月 (30 分)																																								
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況																																										
・ 手順書の作成 (有)・無) ・ 業務の主な内容： (1) 医薬品保管証には必要最小限の薬剤である。 (2) 医薬品保管証の薬品以外に余剰の薬品はない。 (3) 麻薬、覚せい剤原料、第 1 種・第 2 種向精神薬は施錠できる場所で区別して保管している。 (4) 医薬品の保管場所にきちんと表示がある。 (5) 冷所保存の医薬品が整理整頓されている。 (6) 緊急の場合以外は、口頭指示だけでなく、指示簿や処方せんで指示を受けている。 (7) 内服薬の準備の時には、薬剤を二人でチェックしている。 (8) 注射薬調整では、2 度以上の薬剤確認を行っている。 (9) 点滴投与を開始した後は、点滴ルートから液漏れがないかの確認や、全身状態の確認をしている。 (10) 新鮮凍結血漿は常に 3 7℃で溶解し、3 時間以内に使用している。																																										
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況																																										
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容：																																										

PMDAメーリングリスト登録による医薬品情報入手、日本医療評価機構HPにおける医療事故収集等事業からの情報、厚労省監修Drug Safety Update (DSU) 医薬品安全対策情報、日本医療機能評価機構の「医療安全情報」などの情報入手とともにメーカーに改定後の添付文書の送付を依頼している。

また、直近のPMDA医療安全情報No. 44「医薬品処方オーダー時の間違い」等は病棟担当者を通じて速やかに病棟へ案内した。その他、DSUも含め「薬剤部からのお知らせ」として小冊子にまとめ月に1回、各病棟、各診療科へ配布している。緊急に通知する必要がある場合は、随時、各病棟、各診療科へ、また、病棟担当薬剤師からも、適宜、情報提供を行っている。

PMDA医療安全情報No44「医薬品処方オーダー時の間違い」や日本医療機能評価機構からの医療安全情報は、医学部5年生教育の教育資材としても活用している。

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 7 7 回

・ 研修の主な内容：

平成 2 6 年度実績

No	研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数
1	第 3 回 「医療機器連携システムの使用方法について」 (ME センター 田中淳)	平成 26 年 12 月 2 日 (30 分)	1, 099 名
2	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成 26 年 12 月 12 日 (30 分) 1 回目	
3	”	平成 26 年 12 月 12 日 (30 分) 2 回目	
4	”	平成 26 年 12 月 15 日 (30 分) 1 回目	
5	”	平成 26 年 12 月 15 日 (30 分) 2 回目	
6	”	平成 26 年 12 月 16 日 (30 分) 1 回目	
7	”	平成 26 年 12 月 16 日 (30 分) 2 回目	
8	”	平成 26 年 12 月 18 日 (30 分) 1 回目	
9	”	平成 26 年 12 月 18 日 (30 分) 2 回目	
10	”	平成 26 年 12 月 19 日 (30 分) 1 回目	
11	”	平成 26 年 12 月 19 日 (30 分) 2 回目	
—	(本開催研修会の収録ビデオ Web 上映)	平成 27 年 3 月 (30 分)	

その他、6 6 回

除細動装置や人工呼吸器等の有効性・安全性に関する事項。

医療機器の使用方法に関する事項。

医療機器の不具合が発生した場合の対応。

③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況

- ・ 計画の策定 (有・無)
- ・ 保守点検の主な内容：

(医療機器関係)

点検は、機器の性質や性能などにより細部の点検項目が異なるものの大きく分類すると、外観・機能・性能・電気的安全性点検等から構成され、これらの項目を基に製造業者の取扱説明書及び添付文書に記載されている事項を参考にし、機器毎に保守点検表を作成し点検を行っている。

(放射線関係)

製造業者の点検説明書及び添付文書に基づき、電気的安全点検、機械的安全点検、予防的
点検等、保守点検表を作成し行っている。

④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

【収集方法】

(医療機器関係)

- ・ 平成26年度に開催された学会・研究会および研修会等に参加し、医療機器の安全使用のための情報収集等を行っている。
- ・ 各製造業者より安全情報が提供される。
- ・ 医薬品医療機器等安全性情報（厚生労働省ホームページ）及び医療機器関連情報（医薬品医療機器総合機構ホームページ）より情報収集を行っている。

(放射線関係)

- ・ 各製造業者より安全情報が提供される。
- ・ 医薬品医療機器等安全性情報（厚生労働省ホームページ）及び医療機器関連情報（医薬品医療機器総合機構ホームページ）より情報収集を行っている。
- ・ 平成26年度に開催された学会・研究会および研修会等に参加し、医療機器の安全使用のための情報収集等を行っている。

- (1) 第70回日本放射線技術学会総会学術大会
(主催：公益社団法人日本放射線技術学会) (平成26年4月 神奈川)
- (2) 第28回日本核医学技術学会九州地方会学術大会
(主催：日本核医学技術学会九州地方会) (平成26年7月 長崎)
- (3) 第30回日本診療放射線技師学術大会
(主催：公益社団法人日本診療放射線技師会) (平成26年9月 別府)
- (4) 第34回日本核医学技術学会総会学術大会
(主催：日本核医学技術学会) (平成26年11月 大阪)
- (5) 第9回九州放射線医療技術学術大会
(主催：九州地域放射線技師会・公益社団法人日本診療放射線技師会・公益社団法人日本放射線技術学会九州部会) (平成26年11月 小倉)
- (6) 第57回放射線治療研究会 (主催：放射線治療研究会) (平成26年11月 福岡)

【提供・周知方法】

(医療機器関係)

- ・ 製造業者より提供された安全情報を機器に携わる者に閲覧させ、保存ファイルしている。
- ・ 院内の各部門へはWebを利用した院内マニュアル統合管理システムでの医療機器の取扱説明書及び添付文書が閲覧及び印刷できる環境を構築している。

(放射線関係)

- ・ 学会等の報告会を行い、周知している。
- ・ 製造業者より提供された情報文書を機器に携わる者へ閲覧させ、保存、ファイルしている。
- ・ 放射線部情報システム (RIS) を使用し、装置マニュアル及び安全管理マニュアルの閲覧ができる。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構 (ver. 5.0) の認定期間が平成26年7月25日で終了。 平成28年2月に再受審予定。	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 本院ホームページへの掲載，病院広報誌，テレビ番組出演 等。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 以下の横断的診療班 (室) を設置している。 ・褥瘡対策班 ・緩和ケア診療班 ・栄養サポート班 ・輸血療法室 ・脳卒中診療班 ・化学療法室 ・口腔ケアサポート班 ・呼吸サポート班 ・糖尿病診療班	